



Fujiこどもの家バンビーノの森

-  園の所在地： 富士河口湖町勝山3407-1
-  代表者氏名： 朝比奈 茂
-  電話番号： 0555-72-9995
-  園ホームページ： <https://www.bambino-mori.co.jp>

 活動場所 通称「したのもり」 園舎から100m程の人工林内
園で設置したブランコと櫓がある

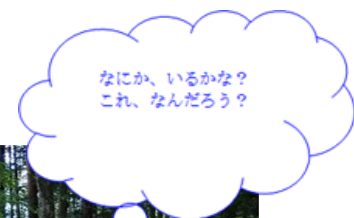
 活動のねらい 自然の中で探求心を持ち、友達と関わりながら、自分の思い
や考えを発言し、自ら遊びを展開してゆく



活動内容

保育者が森で切り倒してあった木の皮をむくとミミズがはった様な道跡があった。

そこへ子どもが集まり、知っている言葉を駆使し、想像力を働かせ、遊び（活動）を子どもたち自ら継続、発展させていった。小さな発見は、様々な事象に心を動かし、真剣に向き合い、子ども達の探求心を豊かにするきっかけとなった。



子ども達の気づきや育ち

「切り倒してあった木の皮をむくとミミズがはった様な道跡があった。」　そこから。。。

「これは何だろう？」「虫がつくった迷路じゃない？」「どこに虫がいるの？」「誰かが隠したのかな」と感じたままを口にする。

そうしているうちに、もっと皮をむく子。

すると、小さな黒い虫が出てきた。クモも、ゲジゲジもいた。

そこでまた、「この虫がつくった跡？」「どうやってつくったの？」「なぜ虫は木の皮にいたの？」など、

そこにいた子ども達からは十人十色の考察と発見があった。

保育者はどの答えにもうなづき、一緒に不思議を楽しむ。

「他の木も見てみよう」「木を動かして下を見てみよう」「図鑑で調べよう」と発展、“虫探し探検隊”も登場。



考察

1つの不思議から、子ども達は想像して話だし、“もっと〇〇したら…”と行動し、新たな発見からさらに興味や想像が広がり、次の発見や更なる行動へと繋がっていった。

子どもは大人が言うことは正しいと思っているので、「汚い」「気持ち悪い」等と大人が発言するとその言葉を真似し、そういうものだと思い行動するようになる。自分の感想すら言わなくなる事もあるので、気を付けたい。

本来、どの子どもも“もっと知りたい”“正解は自分で見つけたい”という気持ちがある。自分のやりたい事をしている時こそがその子の集中している時です。一つの事に夢中に成り、繰り返し同じ事をする時でも、自然の中では少しずつの違いが生じ、子どもはいつまでも心弾ませて楽しむ事ができる。この経験が子どもの育ちには必要であり、たくさんの実体験を積み重ねて成長していきます。この経験は、自然の中だからこそ、そして幼少期であるからこそ、人間が本来持っている力を最大限発揮することができるのだと考えます。



うごかして
みよう！